

子ども被災者支援基金

2015年事業報告書

1. 事業スケジュール
2. 夏の助成事業応募団体
3. 夏の助成事業採択団体
4. 事業の評価と課題
5. 次年度の方向性

福島第一原子力発電所事故による放射能物質等の影響を受けている子ども達の中で、
保養に出ることが困難な子ども達への支援
と
より多くの子ども達へ保養の機会を作るプロジェクト

子ども被災者支援基金

×



公益財団法人

庭野平和財団

NIWANO PEACE FOUNDATION

1. 事業スケジュール

2015年

- 5月 1日 新体制の準備委員会を結成
- 6月15日 新体制による事業計画書、予算書をNPFへ提出
- 6月21日 子ども被災者支援基金設立
- 7月 1日 2015年夏助成募集開始（10日まで）
- 7月15日 NPFにて選考委員会実施、24団体中14団体を採択
選考委員会終了後、事務局運営会議
- 7月18日 事業対象期間開始
- 7月19日 採択通知発送、
- 7月29日 モニタリング実施（丹後の海：早坂）
- 7月30日 モニタリング実施（スマイリンクPJ：早坂）
- 8月 1日 モニタリング実施（殿下未来工房：岡田）
- 8月 4日 交付申請書完備の団体から順次振り込み
- 8月 5日 モニタリング実施（宇部の会：早坂）
- 8月 6日 モニタリング実施（東はりま：早坂）
- 8月11日 モニタリング実施（鶴岡守る家、とちの実：早坂）
- 8月15日 モニタリング実施（小国からの咲顔：早坂）
- 8月22日 モニタリング実施（ライフケア：岡田）
- 8月23日 モニタリング実施（川俣ハンド：早坂）
- 8月31日 助成対象期間終了
- 8月31日 事務局運営会議、今後の方向性について（9月2日まで）
- 9月 1日 清算事務開始
- 10月30日 庭野平和財団夏助成の報告会開催
- 10月31日 事務局運営会議 来年度の事業計画（11月1日まで）
- 11月28日 フィードバック訪問（かさおか：鈴木、早坂）
- 11月29日 事務局運営会議 来年度の事業計画
- 12月14日 フィードバック訪問（びわこ123：鈴木）
フィードバック訪問（ライフケア：岡田）
- 12月15日 フィードバック訪問（東はりま：早坂）
- 12月18日 事務局運営会議 来年度の事業計画（12月19日まで）
- 1月 3日 事務局運営会議 法人化に向けての調整
- 1月23日 事務局運営会議 来年度の事業計画（1月24日まで）
- 3月22日 事務局運営会議 ホームページ作成について

2. 夏の助成事業 応募団体

- ①吹夢キャンプ実行委員会 大阪府
- ②さよなら原発ママパパ美作ネット 岡山県
- ③NPO 法人殿下未来工房 福井県
- ④ふくしま子どもキャンプ丹後の海 京都府
- ⑤福島の子どもたちとつながる宇部の会 山口県
- ⑥青梅ブンブンの会 東京都
- ⑦ふくしまいせしまの会 三重県
- ⑧東はりま保養キャンプ 兵庫県
- ⑨ゴーゴーワクワクキャンプ 京都府
- ⑩フクシマの子どもの未来を守る家 山形県
- ⑪ドルフィンキャンプ 東京都
- ⑫特定非営利活動法人ライフケア 福島県
- ⑬Hand to hand project Kawamata 福島県
- ⑭関門保養プロジェクト 山口県
- ⑮福島子ども支援プロジェクト西多摩 東京都
- ⑯とちの実保養応援団 栃木県
- ⑰びわこ1・2・3キャンプ 滋賀県
- ⑱被災地の子どもを応援する会ほんわか 北海道
- ⑲笑顔つながるささやまステイ実行委員会 兵庫県
- ⑳ウェルカムかさおか 岡山県
- ㉑スマイリンクプロジェクト 福岡県
- ㉒小国からの咲顔 福島県
- ㉓福島の子どもたちを守る会北海道 北海道
- ㉔アースウォーカーズ 宮崎県

応募総数 : 24団体

参加予定者数 : 765人(子ども582人保護者183人)

事業費総額 : 31,352,353円

申請額合計 : 6,999,940円

参加費徴収額 : 5,422,800円

総事業費に占める当基金の割合(平均)

: 平均 22.33%

総事業費に占める参加者負担の割合

: 平均 17.30%

参加者一人当たりの事業費

：平均 53,870円
参加者一人当たりの参加費
：平均 7,089円

3. 夏の助成事業 採択団体

- ①ふくしま子どもキャンプ丹後の海（要配慮者枠） 京都府
- ②福島の子どもたちとつながる宇部の会（要配慮者枠） 山口県
- ③NPO 法人殿下未来工房 福井県
- ④東はりま保養キャンプ 兵庫県
- ⑤フクシマの子どもの未来を守る家 山形県
- ⑥特定非営利活動法人ライフケア 福島県
- ⑦Hand to hand project Kawamata 福島県
- ⑧とちの実保養応援団 栃木県
- ⑨びわこ1・2・3キャンプ 滋賀県
- ⑩被災地の子どもを応援する会ほんわか 北海道
- ⑪ウェルカムかさおか 岡山県
- ⑫スマイリンクプロジェクト 福岡県
- ⑬小国からの咲顔 福島県
- ⑭福島の子どもたちを守る会・北海道 北海道

採択総数 : 14団体
参加予定者数 : 472人（子ども357人保護者115人）
事業費総額 : 17,607,313円
採択額合計 : 3,999,940円
参加費徴収額 : 3,922,800円
総事業費に占める当基金の割合（平均）
：平均 22.72%
総事業費に占める参加者負担の割合
：平均 22.28%
参加者一人当たりの事業費
：平均 49,320円
参加者一人当たりの参加費
：平均 8,311円
参加者一人当たりの助成額
：平均 11,204円

4. 事業の評価と課題

●評価できる点

- ・限られたマンパワーとタイトなスケジュールの中で助成事業をやりきったことにつきます。結果的に早坂さんに仕事の荷重がかかりすぎたのではないかと思います。来年度はそのあたりの作業分担をどうするかが課題だと思います。(岡田)
- ・事務局のメンバーはほとんどこのような事業は未経験だったにもかかわらず、実施する事が出来たのは評価していいポイントだと思う。(早坂)
- ・今回の助成対象を要配慮者枠だけでなく一般枠に広げた事で知名度を上げることが出来たと思う。また繰越金も活用した事で、助成先が増えデータの収集に役だったと同時に多くの団体と接触する機会が得られた。(早坂)
- ・この基金の助成があったから、なんとか保養を続けることができた。というコメントをいくつかの団体さんからいただいていること。(鈴木)
- ・保養をやってきたスタッフ(早坂さん・岡田さん・東田さん)がつくっている基金ということもあり、助成団体からの保養実施に関する相談にも、(解決まではできなくても)寄り添うことができること。(鈴木)
- ・前身の関連団体、セーブザチルドレン JAPAN との関係性が良好なこと。アンケート結果など、必要な情報共有を引き続き行っていきたい。(鈴木)

●課題

- ・募集が遅れたこと、またそのことに伴い応募団体への採択結果通知も遅くなり、資金調達に予定外の苦勞をしたとの意見を聞いた。(岡田)
- ・そのことと関連してアンケートの準備も後手後手になってしまった。(岡田)
- ・選考基準をわかりやすく設定した方がいいと思う。例えば「自己資金」、「参加費の設定」、「参加者の交通費補助」、「過去の決算状況」、「継続への意思」など。(岡田)
- ・事務局の構成員が広域的に散らばっているため、会議や打ち合わせの Spann が長く物事の決定や作業に時間がかかる。(早坂)

- ・要配慮者枠と一般枠の基準が曖昧だった。どのような条件だと要配慮者枠としてとらえて良いのか明確な基準が必要。(早坂)
- ・助成団体の保養参加者目標(この基金で全部助けられるわけではないかもしれないが)、約 5000 人(2014 年度日本の保養参加者数)の死守にほど遠いこと。(鈴木)
- ・保養のための基金は、全国でも稀有。そのことをプロモーションしていかなければ今後の資金調達が難しい。(鈴木)
- ・運営面では、東田さんと財団事務局の合意内容について、事前に把握できなかったこと。基金運営ノウハウの引き継ぎについても、現段階でも必要な状況が続いている。早坂さんが北海道入りをして下さり、なんとか急場をしのいだこともあった。(鈴木)
- ・選考基準は公表できるようにしたい。自己資金の比率など、資金面の体力も重要だが、できれば基金が考える「保養とは何か」を示し、その内容にどれくらい合致するかということも基準にできればと思う。(鈴木)

5. 次年度の方向性

1 1 月以降、次年度の方向性、事業計画の立案のため、月 1 回の運営会議を開催し準備を進めた。

【団体の法人化】

- ・昨年度スケジュールからは大分遅れたが、今年度は確実に法人化する。

【パートナーシップ制度の導入】

- ・保養の質の向上を目指す団体とパートナーシップを組んで取り組む。

【助成事業の範囲を限定】

- ・助成金の応募対象者をパートナーシップ団体に限定し、より効果的な資金用途を目指す。

【中間支援の強化】

- ・人材育成やスタッフ教育なども含め、パートナー団体を中心に中間支援を強化していく。

【資金確保】

- ・助成事業以外の事業を強化するため資金獲得に努める。

以上